

生命理工学専攻	研究分野	腫瘍細胞機能学	Lab. ID BS13
研究室Webサイト			
研究課題の概要			
<p>正常細胞においてがん遺伝子, がん抑制遺伝子の変異が蓄積した結果としてがんが発生し, 悪性化する。悪性化したがんは組織内へ浸潤し, 遠隔臓器へ転移する。がんの組織内への浸潤には組織・基底膜の破壊を伴う。我々は1994年にがん転移の鍵を握るタンパク分解酵素を発見しMT1-MMPと命名した(Nature, 1994)。MT1-MMPは細胞浸潤のみならず増殖・運動などを調整するシグナル伝達にも重要な役割を果たしているとのデータが蓄積しつつある。</p>			
博士前期課程/後期課程院生の指導方針、具体的なカリキュラム、研究室での活動等			
<p>細胞培養、DNAとRNAの精製、蛍光化学染色、マトリックスメタロプロテアーゼ活性評価、細胞運動と細胞浸潤測定方法を学ぶ。</p>			
研究室生活の紹介等			
<p>科学を楽しみましょう。</p>			
教員からのメッセージ			
<p>我々はがん化, 悪性化そして転移性獲得の過程を分子レベルで明らかにすると共にその成果を診断・治療法へと応用することを目指している。</p>			
研究室連絡先メールアドレス	ttakino@staff.kanazawa-u.ac.jp		